

社会福祉法人小羊学園 2014年度（平成26年度）事業報告

理事長 稲松義人

2014年度も多くの皆様のご支援・ご協力のうちに、小羊学園の各施設・各事業が守られ、また、計画に沿っていくつかの新たな取り組みを推進できましたことを、心からの感謝をもってご報告いたします。

2014年度の最も大きな出来事は、支援センターわかぎの全面改築の竣工でした。入所者の皆さんは4月から新しい建物での生活に移り、7月からは改築に伴い定員を増した短期入所の受入れも再開いたしました。建物の外観は新しくきれいになりましたが、建物全体が大きくなったことで「施設っぽくなった」との感想も聞こえます。旧若樹学園の建物は、小舎制による「家庭に近い」環境を目指したものでした。今回の改築でもユニットケアは維持しつつ、新しい機能も加えられました。浜北を中心とした地域での障がいのある人たちへの支援の拠点としての役割も考えつつ、新しい建物での生活の質についてはこれから問うていかなければなりません。

三方原スクエアは全面改築から7年目、建物の構造的はグループケアと完全に日中活動の場を分けた構造になっていますが、個々のニーズに合わせてケアマネジメントしつつ進める支援のあり方については道半ばです。7月に4つ目のグループホーム「すずらん」が開設され、小羊学園児童寮時代からの過年齢者解消への取り組みに関しては一つの区切りになりました。しかし、日々成長し次々と18歳を迎える子どもたちの進路の問題は永遠の課題と言えます。退所した人たちの代わりの新たな入所がなかったことの減収が経済的に大打撃となりました。本当に入所というかたちで支援するのがよいのか、個々にアセスメントしつつ受け入れることは大切だと思いますが、理念に添った先駆的な実践を支えるための制度は、いつの時代も未成熟だと感じます。

つばさ静岡は、重症心身障害児者を対象としていることで、浜松での事業とは様相を異にするところがあります。医療施設でもある性質上、これまでも医療スタッフの確保には苦しんできましたが、2014年度は、看護師に加え介護職員についても必要が満たされないスタートでした。何とか一年を乗り切った職員の頑張り、関係の皆さんのご協力に感謝したいと思います。

その他、オリーブの樹で小羊学園として初めてとなる就労支援事業を開始し、生活介護と合わせ多機能事業所となりました。また、浜松南エリアでは、浜松福祉協働センターアンサンブル江之島の建物を出て、地域（参野町）に第2ドルチェを開設しました。民間参加が進む領域において、小羊学園らしい利用者支援のあり方、地域福祉活動としての取り組みが問われています。

1人ひとりのニーズに添って必要なサービスを調整するために、計画相談が導入されています。行政が示す方向性（理念）と実際の取り組み（実践）の間には、大きな隔たりがあります。その狭間にあって、困難なケースと複雑な事務的対応に追われたアグネス3事業所の相談支援専門員の努力もまた2014年度を振り返るときに忘れてはならない点であると思っています。

社会福祉法人のあり方について公益性の高い法人として、①非営利性、②国民（市民）に対する説明責任、③地域社会への貢献が揚げられています。行政から指示されるからではなく、むしろ本来の社会福祉実践のあり方についてモデルとなるような実践にチャレンジし、あるいは日常の利用者支援においても、よりよい支援を求めて新しいアイデアを取り入れる努力がなされていることの一部を職員の研究発表会で聞くことができました。各施設・各事業の事業計画においてもすべてを報告することはできません。是非、適宜ご訪問いただき、また機関紙をはじめ現場から発信されるレポートなどから、課題と取り組みと成果を共有していただければ幸いです。

執行役員会 2014年度(平成26年度)報告

原則、毎月1回開催。メンバーは、稲松理事長(浜松南)、山倉所長・鈴木良成療育部長(静岡)、出水施設長(三方原)、古橋施設長(浜北)、雨宮施設長(浜松中)、池谷事務局長(法人)の7名。

第1回 2014年4月21日(月) つばさ静岡

出席者：稲松義人、山倉慎二、池谷慎人、鈴木良成、古橋誠、出水巖生、雨宮寛

- 浜松市のアンサンブル江之島マネジメント事業を前年度と同額で受託した。
- アグネスの事務所を高丘北地内の貸事務所に移転の報告を受けた。
- 5月の理事会・評議員会の予定される議案について協議した。
- 2014年度の各委員会の担当役員の分担を確認した。

第2回 2014年5月20日(火) 支援センターわかぎ

出席者：稲松義人、池谷慎人、鈴木良成、古橋誠、出水巖生、雨宮寛 欠席者：山倉慎二

- 3月末に3千万円の寄付をくださった田畑さんご夫妻が三方原スクエアで面会できた。
- すずらん施設整備のために静岡銀行細江支店より3600万円の融資を受け、なごみ住宅、東海防災に36,568,000円の支払いをした。
- わかぎ改築工事の支払い(合計693,178,405円)をした。
- 浜松地区にてパソコン(XP)の入替は調査の結果25台が対象で約230万円となる。5年のリース契約で対応することとした。
- つばさ静岡の看護基準の確保について4月はぎりぎりクリアしたが、看護師不足は解消されていない。支援員についても4名の欠員でやりくりしていることの報告を受けた。
- 5月24日の理事会・評議員会の議案の最終確認をした。
- 研修・研究委員会運営規程(案)について協議した。
- 理事長の提案を受けて理事懇談会の開催することとし日程調整することとした。

第3回 2014年6月25日(水) つばさ静岡

出席者：稲松義人、山倉慎二、池谷慎人、鈴木良成、古橋誠、出水巖生、雨宮寛

- 南エリアの事務担当者の杉本道絵さんが8月から産前休に入ることへの対応として、財務、労務に関して、三方原エリアの白尾さんがフォローに入ってもらうこととした。
- つばさ静岡の支援員の補強のために、7月より年度末まで三方原スクエアの西村さんに出向してもらう。看護師は補充も少しずつ進み、何とか現行の基準を保っている。
- ぱるしあの建物塗装と補強工事について1,512,000円の見積額で6月16日より実施することとした。
- 支援センターわかぎ竣工式の準備状況について報告を聞き確認をした。
- アグネスみなみの清川相談員の呼びかけで、デイケア、オリーブの樹、マルカートの職員有志が集まり、保護者の高齢化等に対応した利用者への生活支援のあり方についての勉強会が始まったことの報告を受けた。
- 法人の機関紙つのおえの今後のあり方について、事務管理会議のメンバーに、現在のつのおえ編集担当の古橋さんを加えて、広報委員会として、ホームページのあり方も含めて協議することとした。

第4回 2014年7月29日(水) つばさ静岡

出席者：稲松義人、山倉慎二、池谷慎人、鈴木良成、古橋誠、出水巖生、雨宮寛

- 地湧社より山浦俊治氏の著書の在庫の買い取りの打診があり対応することとした。
- 浜松地区のパソコンの入れ替えが終了した。静岡は秋に実施する。法人内のネットワークの構築に取り組んでおり、本部のサーバーに共有ホルダの設定を進めている。役員レベル、管理者レベル、職員レベルなど、それぞれのホルダをグループ別に共有できるように設定していきたい。
- つばさ静岡の職員欠員は、スクエアからの応援などで軽減されている。看護師数は何とか基準を保っているが、入院者の重症度による基準について対応を検討していることの報告をきいた。
- 浜松市の27年度以降の障害福祉計画策定に向けて、法人の意向についてのアンケートがありグループホームと生活介護事業所の設置の希望を出すこととした。
- マルカートでは一泊旅行に合わせて開設10年目の記念会をすることを了解した。
- 今年度の研究発表会は、2015年2月28日(土)1に聖隷クリストファー大学の教室を借りて開催することとした。
- 社会福祉法人小羊学園職員出向についての内規(案)を承認した。

第5回 2014年8月28日(木) 支援センターわかぎ

出席者：稲松義人、池谷慎人、鈴木良成、古橋誠、出水巖生 欠席者：山倉慎二、雨宮寛

- 来年度採用の応募者は、浜松地区11名、静岡地区1名だった。浜松地区では予定どおり9月7日(日)に試験を実施。静岡では、試験を延期し追加募集することとした。
- 第1次補正予算作成のためのスケジュールを確認した。
- 給与規程の検討事項について、諸手当(運転手当、役職手当、通勤手当、特殊業務手当等)について年内を目標に改定案をまとめた。
- 古橋誠氏より、浜松市グループホーム連絡協議会の調整で、県知協等と合同で田村厚生労働大臣に陳情にいったことの報告を受けた。
- スクエア成人部の増収を図る方法として、日中活動の定員のあり方に付いて浜松市と交渉した
- アグネス前年度の計画相談の請求に過誤があったことが判明し、更新時の計画相談とモニタリングの扱いを間違い請求していた。9月以降に取り下げ再請求を行う予定。
- 杉本道絵さん、産前休暇に入った。

第6回 2014年9月25日(木) つばさ静岡

出席者：稲松義人、池谷慎人、山倉慎二、鈴木良成、古橋誠、出水巖生、雨宮寛

- 9月7日に浜松地区で実施した2015年度採用試験の結果を受けて11名の受験者のうち9名に内定通知を送付し現時点で2名から就職約束書の返送があった。
- 理事会の議案である第1次補正予算の編成に関して、新会計基準における予算編成、会計実務に関して協議した。
- 給与規程の変更について検討に関連して、運転手当については各施設・事業所からの意見を聞くことにした。

- 広報委員会を合わせて開催し、各地区・エリアでの現状を確認し、法人としては、機関紙つのおえと、法人のホームページの運用について体制を整えることとし、地区・エリアでのHPや事業所を出している機関紙等については、その管理者の責任範囲とするが、個人情報の扱いなどについての法人としてのガイドラインをもつことについては今後検討することとした。
- つばさ静岡では、9月12日に厚労省東海北陸厚生局の適正調査があり、軽微な指摘はあったが看護基準などの基本的な部分についての指摘はなかったことの報告がなされた。
- つばさ静岡で10月3日に一ヶ月遅れの採用試験を実施することとした。応募者は5名うち新卒者は2名。他の3名は合格となればすぐに採用することを承認した。
- 浜北エリアでは、10月より支援センターわかぎのサビ管を古橋から渥美に、ひまわりサビ管を小原から古橋に変更することとした。
- また、わかぎの放課後等デイサービスの定員を2015年1月から10名から20名に変更することについて意見交換をした。

第7回 2014年10月20日(月) 支援センターわかぎ会議室

出席者：稲松義人、池谷慎人、鈴木良成、古橋誠、出水巖生、雨宮寛 欠席者：山倉慎二

- 浜松市より来年度の北区のたんぼ広場（発達支援広場）の受託について打診を受けたことについて前向きに検討することとした。
- 温心寮の職員の欠員への対応として、日中活動支援部門の職員が地域に応援に入り、日中活動には11月からオリーブの樹の太田恵輔さんに出向してもらうこととした。
- 補正予算でもマイナスの大きい三方原エリアとしての今後の方針として、児童部の入所は来年度に向けて調整して人数を確保したい。成人部は日中活動支援（生活介護）を20人×2事業所に変更することで増収を図りたいことが報告された。

第8回 2014年11月26日(水) つばさ静岡

出席者：稲松義人、池谷慎人、山倉慎二、鈴木良成、古橋誠、出水巖生、雨宮寛

- 小羊学園を支える会だよりを作成し、払込用紙を入れて発送をしてもらうこととした。
- 各施設等への実地指導、税務署、消防、保健所等の立ち入りなどの結果について、大きな指摘はなかったことが報告された。
- 事務管理会議で給与規程の一部改定に向けた協議の中で、特殊業務手当を廃止し、変則勤務者に対してはさらに報いるような方向性を確認した。また、運転手当のあり方については、各施設の事情に合わせた運用ができる方向で考えたい。
- 浜松地区で職員の交通事故が増えている。法人としても安全教育への取り組みについて検討することとした。
- つばさ静岡では、来年度開設10年となり、大規模修繕計画について概要調書を提出する（実施は2016年度になる予定）ことを承認した。
- オリーブの樹での職員の利用者への不適切な対応について、浜松市に虐待にあたるかどうか連絡し事情聴取を受けた。法人としては懲戒（けん責）とすることとした。
- 来年度の職員配置について、各地区・エリアでの状況について報告を聞き、転勤希望や新職員の配置案について意見交換した。次月継続して協議し1月には方針を固める太古との確認をした。

第9回 2014年12月22日(月) 支援センターわかぎ

出席者：稲松義人、池谷慎人、山倉慎二、鈴木良成、古橋誠、出水巖生、雨宮寛

- 各施設等への実地指導等の結果について報告を受けた。
- 稲松理事長が2015年10月末で定年となるが2016年3月までは(これまでの山崎氏らと同様)幹部職員として定年延長することを来年度の理事会で提案することとした。来年度については、当面、南エリアの担当を継続することとし、その後の管理者を念頭において来年度の配置を検討することとした。
- 三方原エリアの職員不足をカバーするために、浜松地区全体で支えることとし、南エリアから山村職員が出向すること、中エリアから中村職員が異動することとした。

第10回 2015年2月2日(月) つばさ静岡

出席者：稲松義人、池谷慎人、山倉慎二、鈴木良成、古橋誠、出水巖生、雨宮寛

- 第2次補正予算、次年度事業計画、当初予算案の作成に付いてのスケジュールについて確認した。
- アグネスの相談員の退職希望もあり、来年度の体制を整えるために浜北エリア、三方原エリアから候補者を揚げて調整することとした。

第11回 2015年2月23日(月) 支援センターわかぎ

出席者：稲松義人、池谷慎人、鈴木良成、古橋誠、出水巖生、雨宮寛 欠席者：山倉慎二

- ぱびるすの利用者の保護者より、三方原町にある物件で、障がい児支援の事業ができないかという相談を受けたことの報告を受けた。
- 浜松市市議の吉村哲志氏(北区三方原町)から、法人として推薦をしてほしいという依頼を受けたが、法人としての推薦はどの候補者に対してもしないことを確認した。
- 在宅生活者の支援のあり方についての勉強会(清川さん代表)からの保護者向けアンケートを、小羊デイケアホーム、マルカート、オリーブの樹の該当者に対して、療育福祉研究所の活動の一環としてお願いすることとした。

第12回 2015年3月23日(月) 支援センターわかぎ

出席者：稲松義人、池谷慎人、鈴木良成、古橋誠、出水巖生、雨宮寛 欠席者：山倉慎二

- 2月28日(土)、2014年度職員研究発表会が聖隷クリストファー大会を会場にして開催された。発表はよく準備されており、昨年に比べて全体的にレベルが高かったことの報告をうけた。
- 稲松理事長がカナン(岩手)の職員研修会に講師として参加した際に、今後も職員の交流の機会をさぐり、広域災害時などの緊急時には応援し合える関係を構築したいという話しをしてきたことの報告を聞いた。
- 浜松市北区たたんぼぼ広場(発達支援広場)の準備状況について報告を聞いた。
- ネット情報の扱いなどについて危機意識を高めるために、浜松地区管理会議のメンバーで、業者からの説明を聞く場を設けることとした。
- 理事会・評議員会の議案の最終確認をした。
- 新年度の辞令交付式を例年どおり4月1日につばさ静岡ですることとした。

研修・研究委員会 2014年度（平成26年度）報告

1. 総括

研修・研究委員会に組織編成し2年目となった2014年度は、昨年度の反省を踏まえ、年3回の全体会議を持ち、法人の動向を踏まえ各部門で直接支援に結びつくテーマを検討した。研修・研究委員会は、生活支援・日中活動・児童家庭の3部門に分かれ、毎月1回の定例会議内で、研修企画及び各部門での課題共有や今後の方向性等を確認している。実務的には研修企画に多くの時間を費やし、支援の在り方や方向性の提案にまで行き着けない等の課題は残るが、同一職種の主任・サービス管理責任者が協議することで、支援の底上げにつながっている。7月に行われた公開講演会の実務や、2月実施の研究発表会の企画運営も執り行った。

2. 活動報告

①生活支援部門（スクエア・わかぎ・つばさ・温心寮・ひまわりより各1名選出）

GH学習会① 10月 「てんかん発作・機能低下」

GH学習会② 12月 「虐待防止・権利擁護について」

中堅者研修 2月 「自分自身の支援を見つめ直す」

3年・4年目職員対象

*研修企画、各事業所の支援・体制などの課題を共有・検討

②日中活動部門（スクエア・わかぎ・つばさ・デイケアホーム・マルカート・オリーブより各1名選出）

全体研修は行わず、定期的に日中部門職員の派遣研修を実施。

各事業所の参加職員：デイケアホーム6人/三方原スクエア13人/わかぎ5人

マルカート9人/オリーブ1人

*研修企画、各事業所の現状と課題の共有、記録類の在り方の確認、わかぎ隣地の日中活動に向けた情報共有、交換研修や他法人施設見学の検討

③児童家庭部門（スクエア児童部・ドルチェ・ぱるしあ・たんぼぼ・ぱびるす・わかかなより各1名選出）

研修① 6月 「子どもの障がい特性の理解と関わり方」 講師：ルピロ高井氏
グループワーク（事例検討）

研修② 11月 「愛着障がいについて」 講師：ルピロ内山氏
グループワーク（事例検討）

*研修企画、児童支援課題の共有、事業所状況の情報交換

④看護部門

専門職として看護師が参加。年間1回開催し、各事業所の課題共有や情報交換を行った。

⑤全体活動

公開講演会 7月 「小羊学園の事業展開に山浦俊治はどうかかわったか」
シンポジスト：山崎陽司氏、舟橋洋氏、松原康好氏

研究発表会 2月 「利用者理解」 発題6題 優秀賞：わたぐも佐野氏

全体会 4月 年間活動計画の確認、研究発表会企画委員の選出、新委員の紹介

10月 各部門の活動半期報告と後期の活動計画、各事業所の報告

3月 各部門の活動報告および反省、次年度の体制案の検討

事務管理及び担当者会議 2014年度（平成26年度）報告

社会福祉法人新会計基準に移行した初年度のため様々な場面で試行錯誤を繰り返し、何とか決算までたどり着いた慌ただしい一年間であった。事務管理会議と事務担当者会議を二分してから数年が経過し役割や分担等の形は整いつつあるが、法人全体の事務部門体制としては、まだまだ完全とは言えず、今後も継続して構築していかなければならない。

更に、支援センターわかぎの改築工事がすべて完了し、経済的にゆとりがなくなった状況において、如何に有効的に限られた資源を活用し、経済基盤の安定を図っていくかを事務管理会が中心となって取り組む必要性を感じながら動いた年度でもあった。

今後は、各エリアの枠を超え法人全体において、支援部門も含めた各々の管理者が安定した経済基盤の構築を念頭に置き、各事業を継続していくべき時であると感じている。

以下、2014年度（平成26年度）の事務管理及び担当者会議の報告とする。

事務管理会議

- ・社会福祉法人新会計基準移行に伴う課題の整理と具体的解決策の検討
- ・決算、当初予算、一次補正、二次補正予算の検証及び確認を行い執行役員会に上程した。
- ・各拠点区分の単年度の資金収支差額を検証し、法人本部の按分経費ルールの再検討を行い執行役員会に上程した。
- ・事業計画に沿った財務の中期的展望を立てるとともに検証し執行役員会に上程した。
- ・法人本部の在り方や次世代に繋がる法人全体の事務管理体制(含人事)及び各事業所の事務体制と役割分担等について検討し執行役員会に上程した。
- ・就業規則、給与規程、臨時職員就業規則など一部改定案を執行役員会に上程した。
- ・行政指導監査及び自立支援法事業所実地指導の指導事項の確認及び是正対策を検討
- ・各事業所の対応困難な人事労務管理に関する事例の対応を検討し実施
- ・人事評価システム構築の準備段階として職員台帳の作成及び等級フレーム等の整理
- ・その他

事務担当者会議

- ・新会計基準に係る実務担当者研修の実施
- ・新会計基準による使用勘定科目の統一について
- ・財務に関する実務処理の月次進捗状況の確認
- ・規程(就業規則、給与規程、臨時職員就業規則、育児・介護休業規程、経理規程、個人情報管理規程等)の整合性をチェックし事務管理会議に進言した。
- ・事務に係る様式の法人統一について検討し事務管理会議に提案した。
- ・労務に関する困難事例の検討
- ・職員採用時の提出書類の確認及び施設採用職員の情報伝達について(連絡表活用の徹底)
- ・福利厚生センター(ソウェルクラブ)26年度の加入手続ほか
- ・寄附金住民税控除の取り扱い及び事務処理について
- ・ホームページ掲載事項の確認及び修正について
- ・その他

法人本部事務局 2014年度(平成26年度)事業報告

1. 総括

2013年2月下旬に着工した、【支援センターわかぎ改築工事】も2014年6月中旬にすべての工事が完了し、法人本部事務局も新しい建物の中で業務を行っていくこととなった。合わせて、三方原スクエア内において行っていた「小羊学園を支える会」の事務処理業務も法人本部事務局内に移した。

法人本部事務局を中心とした法人内の事務集約化も徐々に進み、体制も整いつつあるが、まだまだ課題となる部分もあり、社会福祉法人の在り方が問われつつある現在、より強固な法人本部の機能を構築していかなければならないと感じた年度であった。

また、当初予算より新会計基準への移行を実施したが、事務管理者及び実務担当者には慣れない中での作業等を強いる結果となり、とても苦勞を掛けた一年でもあった。

将来的な財政基盤の安定と人材確保等を主の目的として見直した新しい給与規程の運用を2011年度より開始し4年が経過した。実際に運用していくと改善を要する部分も未だにあり、まだまだ完全なものとは言い切れず、人件費等の推移もみながら、今後も見直しは継続的に行っていく必要があるが、運用開始から5年後を一つの目途として考えている。

2. 理事会・評議員会

第165回理事会・第74回評議員会(26.5.24)	25年度事業報告及び決算案ほか
第166回理事会・第75回評議員会(26.10.25)	一次補正予算、定款変更、規程改定ほか
第167回理事会・第76回評議員会(27.2.23)	定款変更、指導監査の実施結果
第168回理事会・第77回評議員会(27.3.28)	二次補正、事業計画・当初予算ほか

3. 指導監査

- ①実施日 2015年1月28日 三方原スクエア児童部、成人部(浜松市)
支援センターわかぎ(浜松市)
- ②実施日 2015年2月3日 つばさ静岡(静岡市)
- | | |
|----------------|--------------------------------------------------------|
| 改善指導事項 わかぎ | ・寄付金について、申込書と台帳の記載に相違が認められた。寄付者の意向に基づき台帳に記載すること。 |
| 助言指導事項 スクエア児童部 | ・入居契約書について、適切に記載すること。
・100万円を超える契約は、契約書を作成すること。 |
| スクエア成人部 | ・個別支援計画は、保護者の同意を得た日を記入する。
・100万円を超える契約は、契約書を作成すること。 |

4. 医療監視

実施日	2014年11月20日	静岡市保健所
実施事業所	つばさ静岡	
指摘事項	特になし	
指導事項	特になし	

5. 借入金償還及び期末残高

(単位：円)

経理区分	借入先	内容	当期償還額	期末残高
児童部・成人部	福祉医療機構	施設整備	11,210,000	156,940,000
つばさ静岡	福祉医療機構	施設整備	18,000,000	180,000,000
つばさ静岡	静岡県	用地取得	18,666,000	672,006,000
わかかな	静岡銀行	施設整備	1,992,000	12,032,000
ひまわり	静岡銀行	施設整備	1,992,000	12,032,000
温心寮・あゆみ(2件)	遠州信用金庫	施設整備	3,600,000	61,650,000
法人本部	静岡銀行	用地取得	1,992,000	35,020,000
小羊デイケアホーム	浜松信用金庫	用地、建物改修	1,603,456	31,940,721
オリーブの樹	静岡銀行	用地取得	1,992,000	16,846,000
わかぎ	福祉医療機構	施設整備	13,636,561	226,363,439
すずらん(温心寮)	静岡銀行	施設整備	1,650,000	34,350,000
計			76,334,017	1,439,180,160

*つばさ静岡の施設整備(福祉医療機構分)の借入償還は、静岡県より全額元利助成あり

*スクエア児童部・成人部と支援センターわかぎの借入償還は、県社協より一部元利助成あり

6. 法人事務関係

理事会、評議員会関係・資産登記・社会福祉法人現況報告・定款変更申請・支える会
 建物表示及び保存登記・退職共済関係・求人活動(法人採用職員)・障害者雇用納付手続
 福祉医療機構借入申込手続・民間金融機関借入金申込手続・固定資産非課税申告・車輛保険
 事業完成報告・自動車税減免申請・消費税納付手続・福祉人材処遇改善届及び実績報告
 第三種郵便・しせつの損害補償・火災保険・寄附金控除(所得税、住民税)手続ほか

7. 施設整備

① 【温心寮(すずらん)新築工事決算】

(単位：円)

支出内訳	予算額	決算額	差額	備考
建 物	38,685,000	38,568,000	-117,000	
本体工事		33,760,000		
スプリンクラー		4,808,000		
合 計	38,685,000	38,568,000	-117,000	

※三方原地区において、4番目のグループホームとして、旧あゆみホームの跡地に整備を行った。

② 【オリーブの樹事務所改修工事決算】

(単位：円)

支出内訳	予算額	決算額	差額	備考
建 物	2,409,000	2,365,010	-43,990	
改修工事		1,242,000		
電気工事		1,123,010		
合 計	2,409,000	2,365,010	-43,990	

※近年の事業拡張につき、事務所の手狭さが課題となり、必要最低限の改修工事を行った。

③ 【支援センターわかぎ改築工事決算】

2013年（平成25年）2月23日に解体着工した「支援センターわかぎ改築工事」は、ほぼ予定通りの工程において特に大きな問題もなく、2014年（平成26年）6月18日にすべての工事が完了し、引き渡しに至り、同月30日には、竣工式を執り行った。（単位：円）

支出内訳	予算額	決算額	差額	備考
本体工事	646,275,000	643,825,950	-2,449,050	
主体工事		601,270,950		
追加工事		42,555,000		
仮設工事	44,415,000	47,553,450	3,138,450	
外構工事	66,360,000	53,492,250	-12,867,750	
解体工事	39,690,000	16,933,350	-22,756,650	
設計監理	42,252,000	42,252,000	0	
備品整備	18,900,000	15,926,400	-2,973,600	
合 計	857,892,000	819,983,400	-37,908,600	

8. 決算の概要

社会福祉法人新会計基準移行後に初めて迎えた決算のため、前年度末との対比が非常に難しくイレギュラーな数字がいくつか並んでいる解りにくい決算であることを踏まえ、

- ・法人全体の当期資金収支差額合計は、8,470万円ほどの数字となり、結果、当期末支払資金残高は、約7億4,007万円となった。（昨年度は、約6億7,137万円）

【資金収支計算書より】

- ・法人全体でのサービス活動収益は約21億1,946万円であり、事業活動費用は約22億4,189万円となり、結果、サービス活動増減差額は、約-1億2,243万円となった。
- ・また、当期活動増減差額は、約-5億7,238万円となり、積立金積立額を差し引き、結果、次期繰越活動増減差額は、約16億5,708万円となった。（昨年度は、約22億3,266万円）

【事業活動計算書より】

- ・資産の部合計4,962,726,892円、負債の部合計1,667,013,456円となり結果、平成26年度の法人全体の純資産は、3,295,713,436円（資産登記額）となった。

（昨年度は、3,526,006,734円）

【貸借対照表より】

三方原スクエア児童部 2014年度（平成26年度）事業報告

1. 総括

児童部としてはこれまで家庭引取りが困難なケースが多く過齢児が滞留している状況が続いていたが、年齢延長措置廃止の指針が出されたことを受け、26年度はGH増設事業を実施したことで5名の過齢児の解消と利用者の再編を図ることができた。GH開設は年度当初の予定であったが申請手続きやスプリンクラー設置等の都合上、開設が6月となった。籍の異動が年度途中となったことで、空いた児童籍への新規入所調整は学校の転校の兼ね合いもあって予定より難航し、年度途中での新規入所児童は3名に留まっている。定員20名に対する実員17名という状況は運営的にも厳しく、職員も2名の欠員状態だったこともあり稼働ユニット数を減らしながら支援と運営の工夫を行った。

2. 利用者の状況（2015年3月31日現在）

	就学前	小学生	中学生	高校生	～19歳	20歳～	合計
男	0	3	2	7	1	2	15
女	0	2	0	0	0	0	2
合計	0	5	2	7	1	2	17

<入所利用者>

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
定員	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20
在籍者数	20	20	16	15	15	17	17	17	17	17	17	17	17.1
契約	11	11	7	6	6	6	6	6	6	6	6	6	7
重度加算	9	9	6	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5.8
重複加算	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
措置	9	9	9	9	9	11	11	11	11	11	11	11	10.2
重度加算	5	5	5	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4.3

6月に過齢児4名が、7月に1名がそれぞれ成人部へ異動。6月に措置入所児童1名が在宅へ移行、7月に1名が、9月に2名が措置で新規入所となった。

<日中一時支援>

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
延べ利用人数	18	19	18	21	29	32	28	38	28	27	23	34	315
延べ利用時間	118	118	126	146	215	225	196	251	192	184	153	226	2,150

<短期入所事業>

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
延べ件数	64	67	68	64	59	65	67	57	59	59	59	80	768
延べ利用日数	156	151	157	147	145	150	153	133	158	145	136	194	1,825

3. 職員の状況

	施設長	児発管	事務員	児童指導員	保育士	看護師	心理担当	栄養士	調理員	運転手	添乗員	嘱託医	合計
定数	1	1	1	5			1		1			2	12
現員	*1	1	1	11		1	1	1	6	2	1	2	27
パート再掲									2	2	1	2	7

7月に臨時職員1名が成人部へ異動、9月に正規職員1名が退職。

4. 支援、活動の状況

- ・当年度は5名の新規入所児童があったが、傾向としては行動障害を伴うケースや本人は軽度であっても家庭に問題があり適切なコミュニケーションが取れないケースなど、児童全体としてもタイプが2極化してきている。そのような状況に対応する職員も、職員体制や関わりの方法など技術と質の向上が求められ、勤務での協力や会議等での情報共有と検討の機会を多く持ちながら対応した。
- ・入所児童の課題把握と改善に向けた児童相談所や学校5等の関係機関との支援会議を実施した。
- ・年度途中から3ユニット体制となったが、在宅支援の役割も重視し空いているユニットを利用し特に週末の日中一時や短期入所を積極的に受け入れた。
- ・高等部3年生で卒業を迎える児童2名は在宅移行が困難であったため関係機関との協議を重ねた結果、他障害者支援施設の短期入所を利用できることとなり、スクエア児童部を退所することができた。

5. 特別な行事・事業等

- ・創立記念日・秋祭り・クリスマスを全体行事とし、季節による行事や外出などは教会学校や各ユニット(グループ)の中で企画し実施した。
- ・長期休暇期間を利用し普段体験する事のできない旅行や外出の機会を多く持った。

6. 固定資産(土地、建物、車輛、備品等)の整備

- ・利用者(短期入所、日中一時支援利用者を含)により破損した建具・配管等の修理など必要な修理を予算の範囲の中で行った。

7. 苦情等について

- ・三方原スクエア前の公道向かいのお宅の方より、外で遊んでいた児童が石を道路に向かって投げっており危険だとの申し出がある。申出人に対しては謝罪するとともに、職員へは申出内容を通知、また児童部会議にて協議し対応を徹底することとした。

以上1点、施設内での対応により苦情解決委員会開催には至らず。

8. 決算の概要

事業活動収入が約1億1,571万円、事業活動支出が約1億2,724万円であり、結果、事業活動資金収支差額は、約-1,153万円という数字だが、予算対比では、約840万円の増となった。少しでも、あるがマイナスが減少しつつある。

三方原スクエア成人部 2014年度（平成26年度）事業報告

1. 総括

スクエアはこれまでもユニット支援を行ってきたが、近年利用者の身体や意識状況が変化してきていることを受け現在の利用者像に合った編成の必要性が求められてきた。当年度6月に開設したGHすずらんは児童部の過齢児問題を解消するためでもあったが、実際に地域移行したのは成人部利用者であり、入所施設からの地域移行という制度やスクエアの目的の実践に繋がるものでもあった。この機会に改めて利用者の状態を再確認しつつユニットの再編成を行ったことで、利用者にとっても職員にとってもより専門性のある支援や安心できる環境の提供が可能になった。

2. 利用者の状況

<入所利用者>

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
定員	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30
在籍者数	30	30	29	29	29	29	29	29	29	29	29	29	30
延べ利用日数	885	907	862	878	869	861	888	860	889	868	805	888	10,460
平均利用日数	29.5	30.2	29.7	30.3	30.0	29.7	30.6	29.7	30.7	29.9	27.8	30.6	29.9
区分6	22	22	21	21	21	21	22	25	25	25	25	25	22
区分5	7	7	6	6	6	6	6	3	3	3	3	3	7
区分4	1	1	2	2	2	2	1	1	1	1	1	1	1

6月にGHすずらんが開所、成人部利用者より6名が地域生活へ移行した。その空いた籍へ児童部より過齢児が5名成人籍へ移籍。

<生活介護>

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
定員	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40
在籍者数	51	50	50	50	50	50	50	50	50	50	50	50	50.1
延べ利用日数	1,097	1,098	1,081	1,123	1,072	1,077	1,133	1,071	1,078	1,110	986	1,127	13,053
平均利用日数	21.5	22.0	21.6	22.5	21.4	21.5	22.7	21.4	21.6	22.2	19.7	22.5	21.7
区分6	29	29	29	29	29	29	31	36	36	36	36	36	32
区分5	16	16	17	17	17	17	16	11	11	11	11	11	14.3
区分4	4	3	2	2	2	2	1	1	1	1	1	1	2
区分3	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2

<日中一時支援>

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
延べ利用人数	99	101	107	112	94	111	105	95	99	97	91	113	1,224
延べ利用時間	259	295	272	332	294	334	301	294	320	290	215	286	3,492

3. 職員の状況

	区分	施設長	管理責任者 サービス	事務員	支援課長	支援員	看護師	指導員 機能訓練	栄養士	調理員	家政員	嘱託医	合計
施設 全体	基準		1			29.8						1	31.8
	現員	*1	1	3	37	1	1	1	2	1	1	1	48
	臨時				2				2	1	1		6

7月に職員1名がつばさ静岡へ出向。児童部臨時職員が成人部へ正規職員として異動。12月に管理栄養士1名が退職、7月付で管理栄養士1名を採用。日中職員1名が8月にGHへ出向。9月入所職員1名が育児休暇明けで復帰。障害者雇用の職員1名が5月よりオリーブの樹の就労継続B型へ移行。

4. 支援、活動の状況

- ・日中活動に関しては「みらい」に続いて「山浦」がわかぎ隣地へ移転でき、生活の場から外へ通う形が明確になった事と環境的にも快適な中での活動が行えるようになった。
- ・その他、施設入所を希望しながら実現できずに困難な課題を抱えながら在宅生活を続けている方たちの多くのニーズにも応えるため、短期入所や日中一時支援なども可能な限り積極的に受け入れるよう努めた。

5. 特別な行事・事業等

- ・毎年地域の方々と行っていた夏祭りを利用者の体調負担を考慮し秋祭りへ移行した。気候、天候も良く近隣の方やボランティアも多く参加され皆が楽しめ交流できる行事となった。
- ・聖隷クリストファー大学主催のコーヒーショップ啓、絵画教室、ドーナツの会（おやつ作り）など地域との交流活動も継続して定例で実施した。

6. 固定資産（土地、建物、車輛、備品等）の整備

- ・日中活動利用者送迎に対応するため6月に14人乗り車両を5年リースで契約した。
- ・職員や行事用の駐車場としてスクエア北西の土地を賃貸契約し利用できるようにした。
- ・スクエア東隣地の土地について、今後賃借での事業利用を見据えて除外申請を行った。
- ・利用者により破損した建具・配管等の修理など必要な全体修繕を3月に行った。

7. 苦情等について

- ・法人内通所事業所の保護者より、スクエア日中活動職員の利用者に対する対応が粗雑であるとの申出があった。該当職員に対して面接を実施し注意勧告を行い、申出人には説明と謝罪を行った。
- ・日中活動利用者と職員で館山寺を散歩中、釣りに来ていた申出人の釣竿を利用者が踏み破損したとの申出がある。施設長から申出人に連絡を取り謝罪し、付き添っていた該当職員に対して注意を行った。

以上2点、施設内での対応により苦情解決委員会開催には至らず。

8. 決算の概要

事業活動収入が約2億6,618万円、事業活動支出が約2億6,728万円であり、事業活動資金収支差額が約-110万円となり、結果、当期資金収支差額が約-66万円となり、前期末支払資金残高を取り崩した。

温心寮 2014年度（平成26年度）事業報告

1. 総括

当年度は三方原地区で4カ所目となるGHすずらんが開設した。長年小羊学園として行ってきた地域生活支援の実践を継続しつつ、三方原地区としては重度の障がいを持った利用者の地域移行を更に進めることができ、今回はスプリンクラーも設置したことで利用者にとって安全で安心できる環境を提供することができた。児童部の過齡児解消や成人部からの地域移行等、多くの課題の中で様々な検討を行いつつGHへ移行したが、それを支援する職員体制の構築も大きな課題であった。26年度のサービス報酬改正による削減は運営と職員体制確保に大きな影響をもたらす結果となったが、重い障がいを抱える利用者への地域支援を大切にしつつ勤務体制や支援方法の工夫に努めた。

2. 利用者の状況

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
定員	18	18	22	23	24	24	24	24	24	24	24	24	22.8
在籍者数	17	17	22	23	24	24	24	24	24	24	24	24	22.6
延べ利用日数	504	503	656	709	673	712	738	714	717	706	667	737	669.7
平均利用日数	29.6	29.6	29.8	30.8	28.0	29.7	30.8	29.8	29.9	29.4	27.8	30.7	29.7
区分6	4	4	7	8	9	9	10	12	12	12	12	12	9
区分5	7	7	9	10	10	10	10	8	8	8	8	8	8.6
区分4	3	3	2	2	2	2	1	1	1	1	1	1	2
区分3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3

GH開設に伴い6～7月に5名の成人部入所利用者が地域へ移籍した。その後10月にマルカート利用者1名が新規入居された。

3. 職員の状況

	施設長	管理責任者 サービス	事務員	世話人	支援員	介護員	心理担当	栄養士	調理員	運転手	添乗員	嘱託医	合計
現員	*1	1			8							1	10

6月GH4棟体制に伴い6月に職員1名採用し11名体制となる。男性支援職員1名が家庭の事情で7月末退職、8月より補充のため入所日中支援男性職員がGHへ今年度出向。9月末で女性職員1名退職。

4. 支援、活動の状況

- ・GHが4カ所になった事で利用者一人ひとりの障がい状況や特性、また利用者同士の関係性なども考慮したうえでの再編成を行い、更に落ち着いた暮らしを提供できるようになった。
- ・利用者の望む暮らしや一人ひとりの細かい配慮に対応できるよう、職員体制を検討しつつ日勤帯のパート勤務職員も置きながら支援の充実にも努めた。また週末だけでは実施しきれない趣向に合わせた買物外出等の個別支援を平日の昼間の時間を利用して対応できるように、勤務の調整、計画、実践

を合わせて行った。

- ・三方原地区の GH が 4 箇所になったことで体制規模が大きくなったが、必要な情報共有と課題への協議がしっかりと行えるように職員会議を月 2 回行うことで職員の連携と意識向上を図った。それ以外にも法人内、外で行う GH 学習会や連絡会へ積極的に参加し職員の資質向上に努めた。

5. 特別な行事・事業等

- ・三方原スクエアの全体行事に合わせ、創立記念日・秋祭り・運動会・クリスマスと一緒に参加し、季節による行事や外出などは教会学校やケアホームごとの計画の中で行ってきた。
- ・地域との交流を図るための行事や利用者の余暇活動としてのプログラムを工夫していくとともに、自治会の行事にも積極的に参加し、地域住民との交流を深めてきた。

6. 固定資産（土地、建物、車輛、備品等）の整備

- ・6月にGHすずらんを38,685,000円で新設した。またスプリンクラー設備も行なったが、配管工事に係る200万円の追加請求が出され支払いを行った。
- ・GH増設に伴い、利用者送迎のための8人乗り車両を4月にリース契約した。

7. 苦情等について

該当事例はなく記載なし。

8. 決算の概要

事業活動収入が約8,213万円、事業活動支出が約6,934万円で、事業活動資金収支差額が、約1,279万円となり、グループホーム等の整備を加えた結果、当期資金収支は、約486万円となり、結果、当期末支払資金残高は、約2,060万円となった。

小羊デイケアホーム 2014年度（平成26年度）事業報告

1. 総括

ぱるしあ（従たる事業所）を立ち上げて約2年が経過し、利用者においても8名の方が移動したことで、小羊デイケアホームの環境的課題が改善した。しかし、情報伝達不備等の課題も見られ、日々の業務や伝達方法をその都度見直し改善を図った。ぱるしあに通う利用者は、少人数になった事から安定的に活動に集中して取り組めるようにもなり、一人ひとりの個別ニーズや課題に合わせながら支援を提供した。

また、ぱるしあの建物が台風や雨量の多い日には窓や天井からの雨漏りが見られ、支援に支障が出てしまう状況であったため、防水塗装工事を行った。

2. 利用者の状況

- ・ 定員20名 利用契約者数27名（男性18名・女性9名）1日平均利用実績約24名
- ・ 平均年齢：最年長49歳・最年少20歳、平均年齢31歳
- ・ 利用者平均障害程度区分：5,03（区分3（1名）、区分4（5名）、区分5（13名）、区分6（8名）
- ・ H27年4月初旬より、女性利用者1名がオリーブの樹へと移行。そのため、デイケアホームにおいても1名の利用者を補充する方向で調整中。

利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
開所日数	21	20	21	22	19	20	22	18	19	19	19	22	242日
延べ人数	469	431	464	493	415	478	489	417	411	437	429	522	5455名
平均人数	22,3	21,5	22,1	22,4	21,8	23,9	22,2	23,1	21,6	23,0	22,5	23,7	22,5名
通所率	85,9	82,8	84,9	86,1	84,0	88,5	82,3	85,8	80,1	85,1	83,6	87,8	90,1%

3. 職員の状況

- ・ H26年5月に正規職員を補充。産休職員が多いためその都度非常勤を補充した。
- ・ H27年度に、育児休暇明けの職員の戻りを考慮して人員配置の調整が必要。
- ・ 労働条件や有休消化率なども継続的に検討していく。

施設長 (兼サービス管理責任者)	看護師 (非常勤兼務)	機能訓練士	生活支援員	合計
1	1	1	9	12

4. 支援・活動の状況

通所施設として、地域資源の活用や社会性を大切にしながら、利用者自身の自己選択や自己決定を尊重できるように支援している。活動内容を自己決定しながら、エンパワーメントや権利擁護を意識できるように支援してきた。活動選択や自己決定をすることの難し

い方でも、職員が利用者の想いをくみ取りながら一緒に活動を選択し、自分の名前のマグネットを活動種目に貼りながら丁寧な説明と支援を行った。また、職員の入れ替わりが多くあったため、家族の方（保護者）との信頼関係も丁寧に行いながら、安心できる関係作りを意識した。

活動の状況では、活動種目の中で中心的になっているクッキーとパウンドケーキ作りにおいては、伝統のレシピを継続しながら利用者ひとり一人が行程に参加できるように配慮し、利用者自身が意欲的に参加できる様に支援している。販売先は利用者家族の方や聖隷三方原病院、法人内施設での行事や催し、近隣学校関係の催しでの販売を中心に利用者や施設を知っていただける機会となっている。

また、散歩や室内活動についても、活動の目的を明確にしながら支援し、趣味的活動も検討した。継続して取り組むことで、心身の健康管理にも繋がり今後もよりよい支援の継続を行う。

5. 特別な行事、事業等

- ・ 4月18日（金）友愛の里の体育館を利用し、マルカート・かがやきとの交流会を行った。
- ・ 5月30日（金）、日帰り旅行で名古屋港水族館へ出掛けた。
- ・ 10月2～3日で、利用者一泊旅行で伊勢・鳥羽へ出掛けた。
- ・ その他、月1回の誕生会とお楽しみ会、2月には利用者の希望に沿った個別外出を行った。
- ・ 三方原スクエアの祝日ショートステイに職員を派遣し年間10回を実施。
- ・ クリスマス会は、遠州栄光教会三方原礼拝堂をお借りしてクリスマス会を行った。

6. 固定資産（土地、建物、車輛、備品等）の整備

- ・ 事務所にエアコンを設置したことと、建物の老朽化に伴うドアレール等が破損しているため必要に応じて改修を検討。

7. 苦情等について

特に苦情はなし。

8. その他

- ・ 聖隷クリストファー大学、浜松市新任教員、気賀高校などの実習を受け入れている。
- ・ 特別支援学校の生徒さんの体験実習や見学等積極的に受け入れている。

9. 決算の概要

事業活動収入が約6,703万円、事業活動支出が約5,972万円となり、結果、事業活動資金収支差額は約731万円となった。更に、借入償還等を差し引いた結果、当期資金収支差額は、約536万円となった。

ぱるしあ 2014年度（平成26年度）事業報告

1. 総括

放課後等デイサービスとして、設備等不十分な点はまだあるが、その都度対応してきたことで利用者支援もスムーズに行えるようになり、子ども一人ひとりが安心して利用できるように努めてきた。2階では、限られたスペースではあるが、子ども達との距離が近いことや支援も細部に渡り把握しやすくメリットも多い。しかし、受け入れ人数には大きな課題も残り、1日に受けられる人数が定員に満たない状況もあるが、最大限の努力と工夫を行いながら稼動した。

2. 利用者について（放課後等デイサービス）

定員 10名

平成27年3月末日現在、利用契約者数合計17名（浜北特別支援学校15名 和地小学校発達支援学級2名） 26年度利用実績平均 1日7.57人

利用者の状況

相談支援事業所アグネスを中心に、子どもたちの現状や課題を整理しながら連携し、浜北特別支援学校や保護者との情報交換も行いながら支援した。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
開所日数	22	21	22	23	16	22	23	19	20	19	20	21	248日
延べ人数	163	168	173	172	119	167	177	165	167	167	162	188	1877名
平均人数	7.41	8.00	7.86	7.48	7.44	7.59	7.70	8.68	8.35	8.79	8.10	9.95	7.57名

3. 職員の状況

児童発達支援管理責任者：1名、指導員（常勤）2名、パート1～2名

4. 支援、活動の状況

放課後支援として、子どもたちが安心して通える環境作りや職員との関係性を大切にしながら、利用する事が楽しみになるように支援してきた。学校から帰り、ぱるしあで絵本を読んだり玩具で遊びながら、子どもたちが自由に遊ぶ中で子どもたちの成長を身近に感じたり、保護者との情報交換を密に行った。

5. 行事や特別な事業について

季節に合わせた行事や長期休暇には外出も行った。

長期休みでは工場見学や公園への外出を楽しみ、お別れ遠足では動物園に出掛けた。夏場は、ぱるしあ敷地内でプール遊びを行い、気候が良い時は外に出て縄跳びなどをして遊んだ。

6. 固定資産（土地、建物、車両、備品等）の整備

雨漏り対策として外壁塗装工事を行い、雨漏りは改善された。建物が古い状況でもある為、その都度に合わせた改修を行った。

7. 苦情等について

近隣住民の方より、建物の裏側の草が大きくなってしまったため、抜いてほしいとの要望があったが、その他、利用者の保護者関係からも苦情はない。

8. 決算の概要

収支が厳しく（単体ではマイナス）、設備資金の借入償還については、小羊デイケアホームで負担する事とした。

在宅支援センターぱびるす 2014年度（平成26年度）事業報告

1. 総括

ぱびるすが開所し6年が経過した。当該年度も下記の3つの事業を行った。

特性のある子どもたちの支援については、増加する利用ニーズに応える形で対応する事業所も年々増加している。特に学齢期において制度的には、可能なことではあるが複数の事業所利用や毎日・長時間利用、送迎付も当たり前になってきている状況がある。ぱびるすとしては、地域や親の役割をキーワードに支援のあり方を模索してきたが、こうした社会的な流れの中で、求められる支援との違いを痛感してきた1年であった。

2. 児童発達支援、利用者との支援の状況

- ・定員：20名（登録24名）
 - ・利用状況としては、利用率が年間平均104%、年間開所日数は233日であった。
 - ・浜松市内を3路線に分け送迎支援を行った。
 - ・年度末に8名の卒園児があり2名が特別支援学校、4名が特別支援学級、2名が通常級へ就学した。1名が幼稚園に就園した。
 - ・児童内訳：年長8名 年中9名 年少4名・未満児3名3つのグループで支援を行った。
 - ・児童の障がい状況としては、知的障害及び発達障害などを対象とした。
 - ・地区保健師、医療機関、児童相談所含め子ども関連及び障害福祉関連行政との連携の中で、家族支援・子ども支援を行った。
- 特に就学への流れにおいては、5月にぱびるすで教育委員会の方による就学ガイダンスを開催した。学校への引継ぎについても、配慮の必要な3名の移行支援会議を学校で開催してもらった。その他の子どもについても、体験入学への同行や先生の事業所訪問を依頼し引継ぎを行った。
- ・参観会・懇親会を各グループ4回、個別面談を3回行った。
 - ・家族支援については、新入園児を中心にアグネスと連携しながらの支援を行った。卒園後の支援継続も念頭において取り組んでいる。8月に同窓会を兼ね夏祭りを行った。

児童発達支援事業

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
25年実人数	19人	22人	22人	22人	22人	22人	23人	23人	22人	22人	23人	23人	256人
26年実人数	20人	21人	21人	24人	24人	24人	24人	24人	24人	24人	24人	24人	278人
25年延日数	330	429	427	460	342	397	475	422	388	391	398	337	4796
26年延日数	355	392	404	436	356	442	469	402	405	405	419	380	4865

3. 児童発達支援事業職員状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	基準
施設長	※1	※1	※1	※1	※1	※1	※1	※1	※1	※1	※1	※1	1
児発管	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
保育士(正)	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	5
保育士(バ)	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	
指導員(バ)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	

※兼務

採用：4月に1名保育士（正規）を採用した。1日7名で支援を行った。

4. 放課後等デイサービス・日中一時支援事業、利用者と支援状況

定員：放課後等デイサービス10名（登録22名）、日中一時支援事業10名（登録52名）

両事業で1日平均17名程度の利用で調整した。

- ・浜松市内各特別支援学校、特別支援学級5校の児童と幼稚園児の利用もあった。
- ・通常5か所程度からの送迎を行った。
- ・土曜日の預かりを月2回行った。長期休暇時の受け入れを行った。

放課後等デイサービス

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
25年延実人数	13人	13人	12人	15人	20人	17人	19人	19人	22人	20人	20人	21人	211人
26年延実人数	22人	22人	22人	21人	18人	21人	22人	22人	22人	21人	21人	21人	255人
25年延日数	144	174	153	185	160	172	229	195	190	174	183	174	2133
26年延日数	222	244	245	273	168	244	250	227	229	230	233	254	2819

日中一時支援事業

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
25年実人数	46人	37人	44人	46人	37人	41人	36人	35人	39人	38人	35人	36人	470人
26年実人数	26人	25人	24人	28人	25人	28人	27人	25人	25人	26人	25人	25人	309人
25年延時間	545	531	452	683	932	359	345	337	504	355	321	504	6038
26年延時間	324	254	208	388	627	225	241	206	320	265	239	369	3666

5. 放課後支援職員状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	基準
施設長	※1	※1	※1	※1	※1	※1	※1	※1	※1	※1	※1	※1	1
児発管	※1	※1	※1	※1	※1	※1	※1	※1	※1	※1	※1	※1	1
指導員(正)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	3
保育士(正)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
指導員(バ)	2	2	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	

※アグネス所長・放課後等デイサービス児童発達管理責任者と兼務

採用：非常勤指導員を4月に1名、6月に1名採用した。

その他：土曜日、長期休み時1日2名～4人アルバイト職員で不足を対応した。

平常時5名配置、長期休暇児7名配置で支援を行った。

6. 施設整備・備品などの整備

- ・裏庭のコンクリート整備と入り口の蛇腹フェンスの改修(上半期報告済み)を行った。
604,800円
- ・エアコン設置(上半期報告済み)他、軽微な整備を行った。

7. 決算の概要

- ・児童発達支援、放課後等デイサービスの両事業とも安定的な利用があり、収入としては増加したが、保育士等の配置増や人件費の増加分があり収支としては減少している。
- ・二事業合わせて、当期資金収支が約677万円となり、結果、当期末支払資金残高は、約2,747万円となった。

アグネス 2014年度（平成26年度）事業報告

総括

2014年度もアグネスでは、浜松市よりの委託相談支援事業といわゆる計画相談事業（障害児相談支援、特定相談支援、一般相談支援）の事業を行った。計画相談増加への対応として相談員の増員と事務所の移転を行い対応した。しかし、予想以上の増加に事務手続きや相談が追いつかない状況がみられた。年度途中より必要性の高い計画相談以外はお断りする状況になったことは、相談者や関係機関に迷惑をかけ申し訳なく感じている。浜松市の計画相談の進捗は6割程度となっている。相談の事業所も増えているが、対応する事業所や相談員の質を担保しつつ状況が安定するには、しばらく時間がかかりそうである。

1. 委託相談利用者実績など（開所日数258日）

	実人数	身体障害	重症心身	知的障害	精神障害	発達障害	高次脳機能	その他
H25者	101	9	0	75	25	3	0	4
H26者	149	21	1	92	53	1	1	5
H25児	151	13	9	120	5	14	0	2
H26児	125	9	6	102	3	13	0	1
H26計	274	30	7	194	56	14	1	6

・前年度比較：全体として20名程度増加している

2. 委託相談支援方法

訪問	来所	同行	電話	メール	ケア会議	関係機関	その他	合計
290	57	97	950	44	35	1493	2	2968

・前年度比較：全体的な対応件数として600件ほど増加している。

3. 委託相談支援内容

支援内容	件数	支援内容	件数
福祉サービス利用に関する支援	1343	家計・経済に関する支援	77
社会資源活用に関する支援	45	生活技術に関する支援	36
障害や病状の理解に関する支援	4	就労に関する支援	196
健康・医療に関する支援	206	社会参加に関する支援	1
不安解消・情緒安定に関する支援	260	余暇活動に関する支援	12
保育・教育に関する支援	105	権利擁護に関する支援	26
家族関係・人間関係に関する支援	579	その他福祉に関する支援	78

・社会参加に関する相談が減少した他は、増加している。

4. 委託相談支援機能強化事業

- ・困難ケースへの対応 延べ1617回(250程度増)
- ・訪問療育相談 延べ164回(児72回、者92回 20程度減)
来所療育相談 延べ17回(横ばい)
- ・教育・医療・企業・自治会などへの助言等 7回
- ・相談支援事業所連絡会31回 自立支援連絡会関係(中区)34回 市協議会7回

5. 計画相談実施状況

- ・計画作成人数：123人(者) 67人(児) 前年度：64人(者) 42人(児)
- ・モニタリング：317件(者) 123件(児) 前年度：256件(者) 96件(者)

6. 職員状況

- ・管理者(ばびるす、アグネス施設長兼務)
- ・相談員(3名)：委託相談、特定相談、一般相談、障害児相談を兼務

7. その他(研修等)

- ・相談員のスキルアップについては、相談員研修への参加年6回程度参加した。

8. 決算概要

- ・計画相談増加に伴い増収であったが、相談員を1名増員し、ばびるすと共有していた事務所を移転したことなどから支出が増加しており収支としては減少している。
- ・当期資金収支差額は、約97万円であり、当期末支払資金残高が約366万円となった。

マルカート 2014年度（平成26年度）事業報告

1、 総括

事業計画において2014年度重点目標に挙げた点については以下のとおりであった。

- 支援内容の見直し：らっきょう酢漬けづくりは、マルカートの中心的作業であるが、職員のしっかりと取り組もうとする意識が強いことで、全体的にピリピリとして雰囲気が悪くなり、利用者自身が楽しめないとの反省から、生産量を調整するために一部を「生らっきょう」で販売してみた。また、個別の面接で希望のあったプールでの運動のプログラムに利用者数名で試行的に取り組んだ。
- 生活支援に取り組む：ショートステイ利用の送迎はできる範囲で対応しているが、利用者1名が、将来についての相談から三方原のグループホームに入居し退所となり、家庭で支援できなくなったときの南エリアでの生活支援の弱さを感じた。また、家から出られない在籍者への支援も思うように進まず、通所による日中活動サービス以外のメニューのないことを思わされつつ、具体的な改善策をもつことができなかった。
- 職員研修：定例会議の日に時間を割いて、①小羊学園の理念と福祉の仕事、②基本的な援助技術の原則（バイスティックの7原則から）、③障害者虐待防止法と日常の支援、などの研修をした他、初めて日知協の全国研究協議会にも職員を派遣した。

2、 利用者の状況

- 2014年度内の異動は、8～10月にかけて男性1名が、グループホーム（すずらん）への転居に伴い、小羊デイケアホームに移籍。10月から体験利用（日中一時）の女性1名が2月から生活介護（週3日）で新規契約。
- 定員20名、在籍者：年度当初22名⇒年度末22名（男性11名、女性11名うち長期欠席者2名）、一日あたりの平均利用人数：17.03名（事業計画目標18名、前年度実績17.31名）、平均障害支援区分4.9。居住区は、南区11名、東区5名、中区6名。
- 開所日数240日（事業計画241日、1日台風により臨時休業）

2014年度月別利用状況実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間
開所日数	21	20	21	22	18	20	22	18	19	19	19	22	241
契約者数	22	22	22	22	22	22	22	21	21	21	22	22	—
利用者延人数	381	355	390	376	317	338	367	290	317	294	316	364	4105
平均利用者数	18.14	17.75	18.57	17.09	17.61	16.90	16.68	16.11	16.68	15.47	16.63	16.55	17.03
前年度実績	353	342	333	361	313	327	392	350	346	338	337	363	4155
前年比増減	28	13	57	15	4	11	-25	-60	-29	-44	-21	1	-50

3、 職員の状況

- サービス管理責任者は施設長が兼務した。（主任がサビ管の資格研修を受講した。）
- 支援員は、主任を含めて常勤6名、パート3名の計画であったが、資格者の応募があったため常勤7名、パート2名で対応した。体制加算（2.5：1）を確保した。
- 非常勤看護師1名（毎月1日出勤のみ）。嘱託医1名。

- 利用者数が少なくなっていたので1～3月に三方原エリアに1名が出向し、必要に応じて午前中のみドルチェパート職員の兼務で補充した。
- 年度末退職者2名。

4、 支援・活動の状況

【開所日数】

- 年間開所日数は、アンサンブル江之島交流会参加（土曜日1回）を加え241日。

【送迎サービス】

- 前年度同様ワゴン車3台で3コースを基本に対応した。年度末時点での在籍者22名のうち朝夕の送迎利用15名、帰りのみの利用4名、バスでの自主通所1名、2名はほとんど通所できていない。

【日中活動】

- 畑作業、らっきょう酢漬けづくり、エコワーク、健康づくり、創作活動、奉仕作業、買い物、ミーティング、請負作業のおしぼりたたみ（選抜メンバー）

5、 特別な行事・事業等

- 日帰り旅行は6月に日本モンキーパークに出かけた。
- 一泊旅行は9月26日（金）～27日（土）にかけて1回で実施した。一日目は、名古屋港水族館と清水港周遊の2グループ分けてそれぞれバス旅行をし、夕方に館山寺温泉で合流した。夕食は利用者家族や旧職員にも参加も呼びかけ「マルカート10年目記念」として宴会をした。二日目は大型バスに乗り換え、全員で館山寺オルゴールミュージアムとフルーツパークを観光した。
- 10月に小羊学園ふれあい運動会とアンサンブル江之島交流会、12月にクリスマス会、2月に3～4名ずつのお楽しみ外出（前年までの「喫茶外出」の代わり）を実施した。

6、 固定資産の整備

- 2014年度に特別な整備事業はなかった。

7、 苦情の受付状況

- 苦情として受け付けたものはないが、日常の利用者・保護者との会話等の中で、職員の利用者への接し方についての感想・要望などが聞かれたので、スタッフのミーティングで取り上げた。
- 送迎車の運転について市民から法人本部に通報があった。利用者の住むマンションの敷地内を通り抜けていたことに対して説明ができていなかった。車の運転については乱暴にならないように注意喚起した。

8、 決算の概要

- 利用実績が落ちたことで当初の予測より減収となった。特別な設備等の整備はしなかったが、1月以降職員1名が出向したこと、施設長人件費の拠点区分内で按分していることで、かろうじて収支のバランスを保っている。

ドルチェ 2014年度（平成26年度）事業報告

1、 総括

事業計画において2014年度重点目標に挙げた点については以下のとおりであった。

- 保護者へ働きかけ：これまで放課後支援事業の中心であった統括主任が、年度途中で産休・育休となったため、日常の支援体制の維持に追われ、これまでの取り組みを継続することができなかった。
- 地域との連携・協働の強化：浜松市障がい児放課後支援連絡協議会、南区自立支援連絡会児童部会に積極的に参画するほか、個々のケースにおいても、アグネスみなみ等の相談支援事業所や浜松特別支援学校と情報交換しつつ子どもと保護者の支援に努めた。
- 職員研修：新職員を対象に、他法人の事業所もお誘いし初任者研修を実施したほか、法人内の児童家庭支援部門の研修に参加した。

2、 利用者の状況

放課後デイ	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間
開所日数	23	22	23	24	18	22	23	20	20	21	21	23	260
契約者数	15	15	15	15	15	15	14	14	14	14	14	14	—
利用者延人数	207	202	214	238	172	193	204	170	177	167	184	204	2332
平均利用者数	9.00	9.18	9.30	9.92	9.56	8.77	8.87	8.50	8.85	7.95	8.76	8.87	8.97
前年利用者数	231	238	218	260	222	242	253	255	245	230	238	277	2909
前年比較増減	-24	-36	-4	-22	-50	-49	-49	-85	-68	-63	-54	-73	-577

日中一時	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間
開所日数	23	22	23	24	18	22	23	20	20	21	21	23	260
実利用者数	15	14	13	20	19	14	13	13	15	14	14	17	—
利用者延人数	141	135	144	137	113	134	128	115	127	124	122	157	1577
平均利用者数	6.13	6.14	6.26	5.71	6.28	6.09	5.57	5.75	6.35	5.90	5.81	6.83	6.07
前年利用者数	125	117	121	144	133	116	136	138	143	141	135	133	1582
前年比較増減	16	18	23	-7	-20	18	-8	-23	-16	-17	-13	24	-5

合計	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間
開所日数	23	22	23	24	18	22	23	20	20	21	21	23	260
実利用者数	30	29	28	35	34	29	27	27	29	28	28	31	—
利用者延人数	348	337	358	375	285	327	332	285	304	291	306	361	3909
平均利用者数	15.13	15.32	15.57	15.63	15.83	14.86	14.43	14.25	15.20	13.86	14.57	15.70	15.03
前年利用者数	356	355	339	404	355	358	389	393	388	371	373	410	4491
前年比較増減	-8	-18	19	-29	-70	-31	-57	-108	-84	-80	-67	-49	-582

- 第2ドルチェが開設したことで、放課後デイの実績は前年比若干減少しているが、日中一時支援はほぼ限度いっぱいの受入れとなっている。

3、 職員の状況

- 主任者が、産休・育休となり8月から児童発達支援管理責任者を交替した。
- 常勤支援員は2名でスタートしたが8月より1名となった。パート職員6名のうち2名は支援時間に関してはフルタイム、残りの4名は交替勤務。
- 夏休みは毎年加わってくれるアルバイトスタッフ2名のほか、ボランティアの応援もあり、新たな求人をせずに対応できた。
- 1月から1名が長期傷病欠勤となったが、パートスタッフの日数を増やしてもらい、また年度末にかけて新たな学生2名を含むアルバイトスタッフで補充して対応した。
- スタッフ間の人間関係でアルバイトスタッフについて一部困惑したが、パートスタッフも含め、主任者の離脱を補って協力して一年を終えることができた。

4、 支援・活動の状況

- 新しい小学部1年生も加わり、
- 3グループを基本に、利用者同士の相性に配慮し、ゆったりと安心して過ごせることを大切にし、慌しく活動に追われないように配慮した。
- 夏休みのプールは、友愛のさとのプールへ出かける他、低学年を中心に6階の大きい方の浴室を清掃し初めて使ったが楽しく活動できた。
- 芝生の調整池は、晴天時にはちょうどよい戸外遊びの場所になっている。

5、 特別な行事・事業など

- 今年度も、夏休みに路線バスや電車を使っての食事外出、浜名湖遊覧船、工場見学などに出かけたほか、春休みには、第2ドルチェと合同で、のんほいパークに恒例のお別れ遠足に出かけた。
- クリスマス会は、第2ドルチェと合同で行った。

6、 固定資産等の整備

- 2014年度は特別な整備事業はなかった。

7、 苦情受付の状況

- 苦情として受け付けたものはなかったが、連絡帳を誤って他の子どものバックに入れてしまったことに保護者の指摘により気づいた。謝罪しその後の職員の慎重な対応を注意喚起した。日常の利用者・保護者との会話等の中で、職員の利用者への接し方についての感想・要望などが聞かれたので、スタッフのミーティングで取り上げた。

8、 決算の概要

- 事業収入は、ほぼ予算どおりに推移した。
- 支出については、南エリア全体の動向を見ながら人件費等の支出を抑えたこと、備品整備などの特別な支出がなかったことから、施設長人件費の一部を按分して負担したほか、第2ドルチェの開設準備の費用の一部も負担したが、全体として抑えることができた。
- 以上により、当初予算に比べて当期資金収支差額（繰越金）増で終えることができた。

第2ドルチェ 2014年度（平成26年度）事業報告

1、 総括

事業計画において2014年度重点目標に挙げた点については以下のとおりであった。

- 新しい環境で事故なく開設する：1～2例の無断外出はあったが、大過なく一年を過ごすことができた。反省しつつ経験を積み重ね、確実な安全確保につなげていきたい。
- 地域との交流のきっかけづくり：経済的な不安もあり、地元へのサインとなる看板の設置を見合わせたりして、当初の思惑どおりの地元へのアプローチはできなかったが、新年度には地元町内の新入生の受入れもあり、将来につながる可能性を感じている。
- 放課後支援のあり方の検討：ドルチェと違った地域密着型の放課後支援の実践をイメージしたが、半年の間に1キロ範囲内に2箇所の放課後等デイサービスが開設され、行政上の調整がなされていないことに戸惑いを感じた。

2、 利用者の状況

放課後デイ	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間
開所日数	21	20	21	22	16	20	21	18	19	19	19	21	237
契約者数	12	13	14	13	13	13	13	12	12	12	12	12	※12.7
利用者延人数	195	195	208	227	174	215	201	174	179	181	183	207	2339
平均利用者数	9.29	9.75	9.90	10.32	10.88	10.75	9.57	9.67	9.42	9.53	9.63	9.86	9.87

3、 職員の状況

- アンサンブル江之島を離れたことにより法人本部事務局長に管理者を兼務してもらった。
- 主任（児童発達支援管理責任者）1名、常勤支援員2名、パート支援員2名が一年間通して支援に当たった。夏休み期間のみドルチェでの経験のあるアルバイト1名を補充して対応した。

4、 支援・活動の状況

- 放課後デイのみ13名の契約、平均10名弱の利用者で、こじんまりした雰囲気の中で、子どもたち個々の成長にしっかりと向き合えたと感じている。
- 通常の活動は、ドルチェのプログラムを参考しつつ、新しい環境に合わせて取り組んだほか、広い空間を利用したいときにはアンサンブル江之島の空室を借りた。
- 新しい環境を考慮し、防災訓練にも取り組んだ。

5、 特別な行事・事業など

- ドルチェと協力し、夏休みには路線バスや電車を使っての食事外出、浜名湖遊覧船、工場見学などに、春休みはのんほいパークに遠足に出かけた。
- クリスマス会は、ドルチェと合同で行った。

6、 固定資産等の整備

- 開設にともなって必要な備品（電化製品など）を整備した。

7、 苦情受付の状況

- 隣接の店舗（ブライダルプランナー）から、事前に相談がなかったこと、子どもの声が気になるというクレームがあった。お詫びと事情説明をし、できるだけ子どもの声が聞こえないように配慮した。

8、 決算の概要

- 事業収入は、ほぼ予算どおりに推移した。
- 支出については、開設に伴う準備資金の一部を拠点区分間（ドルチェから）での繰入・借入で対応したが、日常的な収支においては無難に推移し、資金収支差額で約200万円を計上できた。

アグネスみなみ 2014年度（平成26年度）事業報告

1、 総括

事業計画において2014年度重点目標に挙げた点については以下のとおりであった。

- 相談支援のあり方についての検討：先進地視察に出かけるなど積極的に取り組み、浜松市の相談支援専門員の研修でも報告した。
- 浜松福祉協働センターアンサンブル江之島の利用促進：はまかぜが地域活動支援センターのプログラムを週2回定期的実施してくれたほか、浜松市社協浜松地区センター主催の南区ふれあい交流会での利用、南区健康づくり課が乳幼児健診等での利用、南区内の地域包括支援センターの会議や研修での利用もあり、徐々に地域での利用が進んでいる。
- 地域福祉の推進（南区自立支援連絡会の活性化）：3つの部会はそれぞれの取り組みにおいて成果をあげているが、課題を整理し共有しつつ継続的な取り組みが大切であることを感じている。

2、 相談の実績（利用者の状況）

- 委託相談の上半期は前年1.5人配置から4名配置で実績増だが、はまかぜの相談員を合わせ4人体制になった下半期でも前年比は実績が伸びている。
- 指定相談（計画相談）は、希望者を受けきれない状況の中でも多少実績数増となった。

委託相談	浜松南														
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	上半期	10月	11月	12月	1月	2月	3月	上半期	通年
実施日数	21	20	21	22(1)	21	20	125(1)	22	18(1)	19(2)	19(1)	19(1)	22(1)	119(6)	244(7)
訪問	35	22	30	38	22	33	180	39	41	37	31	42	39	229	409
来所相談	21	16	12	28	16	22	115	23	18	23	21	14	16	115	230
同行	17	15	10	15	13	19	89	15	19	15	6	19	10	84	173
電話相談	61	57	56	65	37	57	333	61	72	74	68	77	54	406	739
メール	0	0	0	0	3	2	5	0	3	1	4	1	3	12	17
ケア会議	3	4	2	1	2	6	18	1	4	6	4	1	2	18	36
関係機関	141	177	201	274	206	210	1209	244	204	238	213	261	274	1434	2643
その他	4	5	0	3	2	0	14	0	2	1	0	0	0	3	17
合計	282	296	311	424	301	349	1963	383	363	395	347	415	398	2301	4264
前年度実績	112	155	146	170	128	98	809	308	312	256	279	323	276	1754	2563
前年度比	170	141	165	254	173	251	1154	75	51	139	68	92	122	547	1701
指定相談	アグネスみなみ														
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	上半期	10月	11月	12月	1月	2月	3月	下半期	通年
障害児相談	16	12	16	11	6	25	86	9	6	16	10	5	24	70	156
計画相談	34	35	38	28	32	39	206	33	25	37	25	38	32	190	396
合計	50	47	54	39	38	64	292	42	31	53	35	43	56	260	552
前年度実績	40	45	37	34	33	43	232	31	25	24	33	31	41	185	417
前年度費	10	2	17	5	5	21	60	11	6	29	2	12	15	75	135

3、 職員の状況

- 4月に1名を増員し、4名の相談支援員の配置となり、浜松市委託相談（障害者相談支援センター浜松南）担当2名、指定相談（障害者特定相談、障害児相談）担当2名とし、それぞれの役割を分けつつも、連携協力しながら相談にあたった。
- 浜松南あつては、モデル事業として他法人（医療法人好生会はまかせ）の相談支援専門員2名を合わせ4名体制で運営し、全体で相談員6名がいることで相談に厚みができていると感じた。
- 浜松福祉協働センターマネジメント事業は、専任パート職員が育児休暇で不在であったため、相談員を中心に分担して対応した。

4、 支援・活動の状況

- 特に年度後半には、計画相談への対応に追われた。対応件数もさることながら、制度的に求められる書類を整えることに精力を取られていると感じる。
- 事業所との連携がうまく取れると、役割分担を意識してこれまでとは違った側面からの支援ができることは実感している。

5、 特別な行事・事業等

- 浜松市のモデル事業の一環として、市全体の相談支援体制のあり方について、長野県上小園域・松本圏域と半田市先進地視察研修に出かけた。
- コミュニティソーシャルワーカー研修、重症児者ケアマネジメントの研修等に参加し、相談員としてのレベルアップにつとめた。

6、 固定資産等の整備

- 相談員の増員に伴いパソコン1台を増設した（10万円未満のため会計的には備品として扱った）。他には特別な備品等の整備はなかった。

7、 苦情の受付状況

- 委託相談・計画相談・各区役所の担当者との役割分担について十分な説明ができず来談者が戸惑いを感じたり、制度の説明などに際してちょっとした言葉の行き違いから高圧的と取られた部分があったり、制度が定着しない部分でいくつかの苦情、意見を受けた。
- 相談支援専門員の交代に当たっては、事務的な受け渡しをスムーズに行うことに合わせて、信頼関係を受け継ぐことの難しさを感じた。

8、 決算の概要

- 事業収入約2000万円強には、浜松市委託相談の委託料1100万円強、浜松福祉協働センターマネジメント事業委託料150万円強が含まれる。
- 障害児相談、計画相談の収入の実績は、約830万円で昨年よりは増加したが、相談員1名を増員したこともあり、人件費比率は98%であり、全体としては約180万円の支出超過という厳しい決算となった。

支援センターわかぎ 2014年度（平成26年度）事業報告

1. 総括

平成26年4月の一期工事完了・6月の二期工事完了を経て、新建物での生活が始まり1年が経過した。仮設生活からの引っ越しでは慌てふためいた面もあったが、当初予想していたような混乱は回避でき、比較的順調に新生活に移行できた。利用者は新建物での生活を満喫できている様子で、自室で自分の時間を過ごしたりカフェテリアでの食事を楽しめる様子が伺える。むしろ、職員が新しい体制の中で混乱していた。26年3月に気管支狭窄症で入院していた利用者が医療対応になり6月末で退所。8月よりグループホーム入居者で要介護になった方を再入所とした。

7月以降は短期入所・日中一時支援も稼働が始まり、在宅者支援の拡充にも力を注いだ。秋以降は特に男性希望者が増加し、既に調整してもお断りせざるを得ない状況にある。

心配していた運営面では、予算対比で収入増/支出減で決算となり、ある程度体力を残しながら運営できる見通しができた。

2. 利用者の状況 27年3月31日現在

- ◇ 入所支援 定員40名 契約者：40名（男性20名、女性20名） 平均区分5.18
- ◇ 生活介護 定員40名 契約者：44名 平均区分5.20

3. 年齢分布（平成27年3月31日現在）

年齢	～34	35～39	40～44	45～49	50～54	55～59	60～	平均
男性20名	0	1	2	1	7	6	3	53.9歳
女性20名	1	0	1	0	5	7	6	56.4歳
全体40名	1	1	3	1	12	13	9	55.1歳

3. 利用実績

a：入所支援

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	延べ人数
利用人数	40	40	39	39	40	40	40	40	40	40	40	40	478
利用日数	1170	1204	1170	1203	1217	1188	1234	1200	1197	1182	1120	1182	14267

b：生活介護

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
稼働日数	22	23	22	23	23	22	23	22	23	23	20	23	269
延日数	955	985	934	970	953	923	972	926	923	937	869	989	11336

c：短期入所

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	前年比
利用件数	1	0	0	21	26	26	36	45	38	30	41	45	309	+293
延日数	2	0	0	67	79	79	138	156	136	112	157	149	1074	+746

*定員8名 6月までは緊急対応のみ/7月より通常稼働 年間利用(稼働)率:36.8%

d：日中一時支援事業（日帰り利用）

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	前年比
件数	0	0	0	26	41	41	47	70	58	50	46	46	425	+424
時間	0	0	0	164	274	253	312	466	364	324	283	298	2738	+2727

*改築中は緊急時以外は一時休止

5. 職員の動き

	施設長	事務・管理	支援員	看護師	支援員補助	栄養士	調理師	合計
年度初	1	5	25	1	6	1	業務委託	38
年度終	1	5	25	1	5	1	業務委託	37
退職	0	0	0	0	1	0	—	1

*事務・管理には法人本部職員も含む

5. 支援・活動の状況

新建物になり、生活ゾーンではユニット間の協力体制が整った。特に排泄や入浴などの介護を伴う場面で、職員の連携が図れるようになった。日中活動は本格的に動き出したのが秋以降となった。各班活動がそれぞれの場所で行えるようになったが、活動の狙いの共有など課題も残っている。さをり（機織り）グループは、田園空間博物館・天神蔵ギャラリー・ギャラリー60で展示会を行い、地域の方々にも認知され、地元の方がボランティア活動に来られるようになった。

建物構造上の課題では、浴槽サイズが大きく座位が保ちにくくこと・2階利用者の階段昇降等が生活し始めて見え、今後の改善策を検討しなければいけない。

6. 地域との交流

新建物になり、例年実施していた夏祭り・秋祭りを開催し、保護者・地域住民・関係事業所の皆様と交流が深められた。また、6月には竣工式を執り行い、多くの方にお越しいただきお披露目することができた。さらに、平口自治会にも加入し、清掃奉仕や平口花火大会等に参加・協力し、地域の一員としての役割を担うことができた。

7. 苦情等の対応

支援に関わる要望を2件いただいた。それぞれ、状況・経過をご説明し理解をいただいた。

8. 決算の概要

収入：一次補正予算対比で利用率の微増で若干増収。

当初予算対比では、利用率の減（利用者の退所、短期入所の見込み減）で減収。

設備資金借入金元金償還補助金収入 5,202 千円計上

支出：一次補正予算対比で、人件費・事業費・事務費とも予算を下回り支出減。

初年度試算した光熱水費が大幅に抑制することができた。

改築にあたり、特別会計を3月理事会承認を受け締めた。

収支：二次補正対比 二次補正 6,093 千円に対し決算 27,846 千円と 21,753 千円の増

*収入の微増と支出の抑制により決算では 27,846 千円の収支差額となった。

ひまわり 2014年度（平成26年度）事業報告

1. 総括

年度内で2名の入居者が転居となった。女性（66歳）は、アルツハイマー型認知症の進行/てんかん発作の頻度が高くなり、8月1日付けで支援センターわかぎに再入所となった。女性（56歳）は、7月に肺炎を患い入院したが、精密検査で肺血栓と診断され余命宣告を受けた。継続治療が必要なためグループホームでの生活が困難ため、療養型病院へ移行となり9月末で転居となった。その後療養されていたが12月に逝去された。2名の転居があり空室ができたため、12月に浜北特別支援学校3年の男性が入居、続いて年度替わりで男性（35歳）の入居が決まり、定員数に戻る。

2. 利用者の状況（27年3月31日現在）

○ひまわり（定員6名：男性2名、女性4名）

・3区分（1名） 4区分（1名） 5区分（3名） 6区分（1名）

年齢	～50歳	50～55	55～59	60～65	65歳～	合計	平均年齢
男性	1	1			1	3	55.0歳
女性		1	1		2	3	65.3歳
全体		2	1		3	6	60.1歳

○カトレア（定員7名：男性：3名、女性4名）

・3区分（1名） 4区分（3名） 5区分（2名） 6区分（1名）

年齢	～50歳	50～55	55～59	60～65	65歳～	合計	平均年齢
男性	2	2	1		1	6	46.1歳
女性			1			1	56.0歳
全体	2	2	2		1	7	47.5歳

3. 利用実績

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
稼働日数	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	365
延日数	386	400	390	376	327	330	337	330	336	361	342	373	4288

4. 職員の状況

○主任支援員、生活支援員、世話人（専従5名、パート1名、アルバイト2名）を配置。
年度中の退職・異動なし。

5. 行事、旅行等

○利用者会議の中で、ご本人の希望に応じた旅行等を企画・実施した。

6月～11月にかけて4グループに分かれ、旅行（山梨方面）（三重方面）（岐阜方面）

※ 個人旅行 個人の要望から、大阪・館山寺等へ日帰り～1泊2日の旅行を実施

※ その他、月1回の外食、地域祭り、わかぎ夏祭り・秋祭り等に参加

6. 苦情等の対応

特になし

7. 決算の概要

収入：夜間支援体制加算の報酬改定、転居による利用率減で、当初予算対比減収。

一次補正対比では、新入居者により若干の微増

支出：予算範囲内での支出となり、大きな支出はなかった。

事務・事業費で軽微ではあるが抑制できた。

収支：二次補正予算額：-3,032千円 決算額：271千円となり、プラスに転じた。

オリーブの樹 2014年度（平成26年度）事業報告

1. 総括

平成26年度は利用者32名を職員15名で日中活動支援を行った。秋に施設内の配置換えを行い、新たに2名の臨時職員の採用を行った。

法人内で初めての就労継続支援事業は1年が経過し、清掃委託作業2件と、外部の工場への出向いての内職作業など成果を出してきている。現状では一般就労への移行者は出ていないが、就労可能なスキルを身に付けることができるようなプログラムを取り入れていき、一般就労へ移行できるような取り組みも行っていきたい。

生活介護は他事業所からの移行者2名が新規に利用されたが、それぞれ施設を移ることに目的があったので、その目的が達成されるような支援を行って、移行することがその利用者のためになるような支援を続けていきたい。

10月後半に当施設の男性職員による利用者への虐待事例があり、虐待防止センターへ通報をした。この事例は、当該職員が利用者の問題行動への対応で、不適切な対応を行ってしまったことによるものであり、その職員も感情のコントロールができないまま支援をしてしまったと反省をしていた。虐待防止センターへの通報や、センター職員から聞き取り調査などを行うとともに、該当職員には法人内の規定に基づき処分も行った。その後施設内では利用者の問題行動の再確認と、支援内容の見直し、虐待防止の研修などを行い、利用者の人権保護への意識向上を図った。

今後は再発防止に向けての職員のスキルアップを目指して、研修を実施したり、第三者評価を入れるなど取り組みを考えていきたい。

2. 利用者の状況（平成27年3月現在）

- ・利用者32名（定員40名） 平均区分4.80（生活介護のみ算出）
- 区分なし（2名）・区分3（5名）・区分4（7名）・区分5（13名）・区分6（5名）
- （内、グループホームからの利用者10名 3区分1名 4区分1名 5区分5名 6区分3名）

3. 利用状況（上段：延利用合計 下段：契約者数に対する利用率%）

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
588/609	586/600	629/651	670/682	553/576	628/640	703/733	562/576	594/608
96.5%	97.6%	96.6%	98.2%	96.0%	98.1%	96.0%	97.5%	97.6%

1月	2月	3月	年間
585/608	596/608	672/704	利用率
96.2%	98.0%	95.4%	96.9%

4. 行事・事業等

5月に春の行楽（1日外出）として、駿府匠宿・掛川城へ出かけた。保護者にもご参加いただき、職員との交流も兼ねた外出を企画し実施した。6月には浜北合同スポーツ交流会（運動会）に参加した。夏休み期間中は、プールでの水遊びを行ったりした。9月には保護者会のご協力もいただき、4回目のオリーブ祭りをを行い、約150名の来場者があった。

10月には一泊旅行で伊豆方面へ出かけ、12月にはクリスマス会と忘年会を、1月には餅つき会（成人を祝う会）も実施した。

5. 決算の概要

収入支出ともに、ほぼ予算通りの執行となった。事務所移設工事を行い電気工事も含めて大きな支出があった。その他、愛の都市訪問の補助金を申請し、業務用自動床洗浄機を頂けることができた。

わかな 2014年度（平成26年度）事業報告

1. 総括

平成26年度は、利用契約者15名、日中一時支援利用契約者24名の合計39名の登録者、1日平均20名利用者支援を実施した。職員体制は9月末まで3名の欠員であったので、11月に施設内の配置換えを行い、正規職員の配置を4名から6名へと増やし、パート職員1名を採用して合計8名で支援を行う体制とした。若い職員が多くなり職員の経験不足が不安ではあるが、ニーズに応じていくためにも、施設全体でカバーしていける体制とした。

利用者の活動としては、活動場所が整備されたことにより、1階と2階に利用者が分かれることになったので、それぞれの相性や特性を考慮して、活動場所を再確認し、それぞれの階で活動内容を検討するように変更した。長期休暇時は、1日外出や外食を企画したり、買い物体験をしたりして、地域へ出ていく活動も取り入れてきた

平成27年度に放課後デイの定員を20名に変更することから、1月に保護者への説明と募集を行い、2月に利用者を決定し、相談事業所と連携を取りながら計画相談の依頼を行った。保護者のなかには、計画相談のシステムが理解できていない方が多く、手続きなどでの混乱を招いてしまった。行政側の説明や周知不足が問題であると思うが、事業所側もしっかりと理解していただけるように、今後も説明などをして周知徹底を図っていききたい。

2. 利用者の状況（平成27年3月現在）定員：放課後デイ10名・日中一時10名

登録者数39名（小学部1年～高等部3年）

・放課後等デイサービス登録者15名（浜北特支15名）

（浜北区7名）（天竜区3名）（北区1名）（東区2名）（磐田市2名）

・日中一時支援登録者24名（浜北特支22名・内野小1名・籠玉小1名）

（浜北区18人）（天竜区1人）（東区1人）（北区3人）（磐田市1人）

3. 利用状況

①放課後等デイサービス（中段：延利用合計 下段：利用率%）定員10人で算出

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
248/220	248/210	228/220	277/230	216/190	249/210	234/210	220/190	226/200
112.7%	118.0%	103.6%	120.4%	113.6%	118.5%	111.4%	115.7%	110.3%

1月	2月	3月	年間
219/200	249/200	282/230	115.4%
109.5%	124.5%	122.6%	

②日中一時支援（2段目：開所日数 3段目：延利用者数 4段目：1日平均利用者数）

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
20日	20日	21日	22日	18日	20日	20日	18日	19日	19日	19日	22日
146人	166人	158人	175人	117人	149人	152人	140人	141人	126人	145人	165人
7.30人	8.30人	7.28人	7.95人	6.50人	7.45人	7.60人	7.77人	7.42人	6.63人	7.63人	7.50人

4. 行事・事業等

通常日課時は散歩・ドライブ・創作活動が中心の活動。7月末より夏休みとなり、プールでの水遊びを中心に活動を行った。また、月1回の土曜日利用時及び、夏休み・冬休みなどの期間には1日外出を行い、蒲郡方面や動物園、公園などでのピクニックを実施した。外食にも積極的に出かけ、利用者の楽しめる企画を実施できた。保護者との交流を兼ねた親子遠足は、多くの保護者に出席いただき総勢30名で、サファリパークへの外出となった。今後も、親子関係の支援に関して少しでも関わられる機会が作れるように、引き続き計画していきたい。

5. 決算の概要

収入支出ともにほぼ予算通りの執行となった。共同募金の助成を申請し、屋外プールの開閉式の屋根を設置した。

静岡地区 2014年度（平成26年度）事業報告

1. 総括

平成26年度は深刻な職員不足の対策に苦慮した1年であった。看護師、介護職ともに不足した状況にあったが、職員の努力により利用者の生活の質をほとんど落とすことなく乗り切ることができたように思う。重症児者の高度医療化、重度化が著しい昨今、特に看護師不足は利用者の処遇はもとより、施設運営にも直結する大問題であり、職場環境の整備、離職の抑制などの人材確保には今後も弛むことなく取り組んでいきたい。

入所部門では、誤嚥に伴うと思われる呼吸器感染症が増加傾向にあり、症状が重く点滴治療を必要とする頻度も増えている。また冬にはノロウイルスによる感染症が発生したが、職員の適切な対応、対策により大きな流行には至っていない。

短期入所は、相変わらず満杯の状況が続いている中、職員不足から一時期利用制限をしていたが、年度末には通常の状態にもどすことができている。新規利用者も毎月2～3名ずつ増え続けていて、今後も短期入所ベッドの不足は解消されそうにない。

在宅支援部門では、通所事業、放課後支援事業、ライフサポート事業(通所施設における宿泊)ともに、利用希望が多く需要においついていないのが現状である。

入 所 部 門

つばさ静岡 事業報告

(医療型児童入所7名、療養介護事業56名、短期入所事業10名)

2. 利用者の状況

利用者の入退所の変更はなし。

短期入所実績 実人数173名、延日数2852日

3. 職員について（下段カッコの数字は非常勤職員）

	施設長	医師	薬剤師	児管	サビ管	事務職	看護師	支援員	訓練	栄養	調理	その他	合計
2014.4	1	1 (1)	1	2	4	26 (2)	46 (5)	46 (4)	5	7 (7)	1	1	96 (19)
2015.4	1	1 (1)	1	2	4	30 (2)	44 (5)	44 (4)	5	8 (7)	1	1	97 (19)

4. 支援、活動の状況

日帰り外出、一泊旅行の企画、花見やバーベキュー等家族参加型ゾーン別イベントを実施した。フェスタつばさでは、フリーマーケットやセルフランチ、各種イベント等地域との交流の場として盛大に行うことができた。

在 宅 支 援 部 門

I. わたぐも 事業報告

(生活介護20名)

1. 総括

生活介護事業として3年が経過した。重心児者の日中活動の提供の場として、利用者や家族にとって拠り所となる場の提供のため、支援と看護が協働して進めてきた。今後は、卒業生の受け入

れをどのように進めていくかが課題である。

2. 利用者の状況

4月より2名の利用者を受け入れた。年度中に2名の利用者の入所が決定し、退所した。

II. たんぽぽ 事業報告

(児童発達支援・放課後等デイサービス 併せて5名)

1. 総括

児童発達支援事業の空床利用としての放課後等デイサービスは、3名(呼吸器使用児)の利用があり、週2日お互いの日課を尊重しながら交流し過ごしていた。

2. 利用者の状況

幼児は、体調を崩してしまうことがあり、休園することが多かった。体調に合わせた日課や行事への参加をして楽しむことができた。学校との連携を図りながら取り組むことができた。

III. 難病患者家族支援リフレッシュ事業報告

(訪問看護)

1. 総括

2名の利用者で月2～3回の訪問を行った。主治医からの情報提供書によりつばさ静岡の医師と連携をとる事で診療報酬を対象とする事が可能となり家族の経済的負担が軽減した。

IV. 静岡市ライフサポート事業報告

1. 総括

在宅支援の一環として、宿泊型7回、日帰り型15回を定員4～6名で行った。継続していく予定だが、人員の確保や予算の拡大が課題となる。

2. 利用者の状況

宿泊型延べ30名、日帰り型延べ36名を受け入れた。利用者を受け入れた。医療的ケアの高い人工呼吸器装着者も2回利用できた。

V. アグネス静岡 事業報告

(静岡市障害者等相談支援事業・特定相談・障害児相談ほか)

1. 総括

相談支援専門員2名で、静岡市委託事業『障害者等相談支援事業(重心)』『サービス等利用計画・障害児支援計画作成』『県在宅支援充実強化対策事業』に対応してきた。11月～3月限定であったが障害者相談支援事業所サポート事業を利用し相談補助員を採用。相談員の周辺業務軽減に役立った。

計画作成に関して、自宅訪問、サービス提供者会議開催が必須業務として課され、関係機関との情報交換や日程調整等を含め時間配分に苦慮している。新規の計画作成希望者は後を絶たないが、受け入れは困難になっている。

2. 利用者の状況

委託相談利用者は約130名、述べ相談件数は1,530件で昨年度とほぼ同数であった。医療、福祉、教育等との連携の必要性が高く、関係機関とのやり取りに多くの時間を要した。

計画作成利用者は、約150名。重症児(者)が多数を占める。

3. 在宅支援課全体 職員について（下段カッコの数字は非常勤職員）

	施設長（兼）	管理職	サビ管・児管	看護師	支援員	相談	合計
2014.4	1	1	2	1(7)	5(2)	2	12(9)
2015.4	1	1	2	1(7)	5(1)	2(1)	12(9)

4. 在宅支援課全体 支援、活動の状況

入園式・成人式・運動会・卒園式 等

以下 静岡地区 共通事項

5. 行事、特別な事業等について

フェスタつばさ（9/28）、クリスマス会（入所 12/14・通所 12/20）、職員研修（新人・中堅・管理主任）、地域ネットワーク事業、医療連携研究会の開催、介護・看護従事者養成研修、ケアマネジメント養成研修、各学会発表、勉強会（毎月1回）、協会認定重症心身障害看護師研修会

6. 固定資産の取得

年月日	事業	種別	資産名	数	取得価額	助成団体
H27/1/31	つばさ静岡	医療機器	パルスオキシメーター	2	291,600	-
H26/10/31	つばさ静岡	医療機器	CRP 測定器	1	567,000	-
H27/2/28	つばさ静岡	医療機器	SPO2 モニタ	1	129,600	-
H27/3/31	つばさ静岡	医療機器	呼気炭酸ガスモニタ	1	479,520	-
H26/10/31	つばさ静岡	事務機器	サーバー用パソコン	1	266,760	-
H26/ 9/30	つばさ静岡	収納棚	薬局調剤台	1	261,360	-
H27/ 3/18	つばさ静岡	収納棚	TVボード	1	106,920	-
H27/ 2/27	つばさ静岡	農作業機器	芝刈り機	1	140,000	-
H27/1/31	つばさ静岡	医療機器	パルスオキシメーター	2	291,600	-
H26/ 7/22	つばさ静岡	医療機器	パルスオキシメーター	2	291,276	フィナンソロビー協会
H26/ 6/ 6	わたぐも	介護用品	ストレッチャースケール	1	642,276	県共同募金会
H26/ 5/16	たんぼぼ	防災備品	非常用発電機	1	442,368	県共同募金会
H27/ 3/ 6	アグネス静岡	防災備品	安否コールシステム	1	183,600	県社会福祉協議会
合計					3,802,280	

7. 苦情などについて

苦情件数 5 件、苦情解決委員会の開催（5月）

8. 決算の概要

当期資金収支差額 5,500 万円。2000 万円程度の収支差額で決算を迎えていた近年の実績と比較すると 3,500 万円増で終える事が出来た。その主な要因として収入面では入院診療収入の増 1,700 万円と人件費の減 0.8 千万円が主な要因と考えられる。入院診療収入は利用者の長期の入院と自宅外泊や入退所が無かった事により安定した報酬が維持できた事が要因と考えられる。人件費は例年定期昇給も含め 0.8 千万程度は増加するものであるが、平成 26 年度中は、欠員状態でほぼ 1 年間を凌いだことが要因と考える。幸い法律上の人員配置基準は何とか維持出来たため診療報酬・介護給付費などは減額する事無く一年を終えた。また一昨年よりご家族を中心として運営費の献金活動をしていただいている。今年度も 0.4 千万円の寄付金収入が得られた事を感謝させていただきたい。